

第1回 北日本頭頸部癌治療研究会

プログラム抄録集

日時：平成7年11月25日（土曜日） 午後2時より
場所：民陵会館 記念ホール

共催：北日本頭頸部癌治療研究会
ブリストル・マイヤーズスクイブ（株）
大鵬薬品工業（株）
三共（株）
キリンビール（株）

研究会開催にあたってのご挨拶

この度、第1回北日本頭頸部癌治療研究会を仙台で発足、開催できますことを会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

近年、癌治療の分野においては外科的療法、放射線療法、そして化学療法あるいはこれらの組み合わせによる集学的治療が施行されておりますが、その成果は一進一退の感があります。これは私どもの診療分野である頭頸部癌におきましても概ね同様な状況であります。

その原因としてわが国ではMedical Oncologyの部門が確立されていないため適切な臨床試験が計画されにくいこと、加えて頭頸部領域は口腔外科、放射線科との関係もあり、治療方針の統一が困難であるということが考えられます。さらに北海道、東北地域においては折角の研究も発表する場が少ないため研究意欲の盛り上がりにかけるきらいがあるようにも思えます。

そこでこの度、頭頸部癌に関する研究発表及び研修の場として本研究会を発足させることとなりました。

今回はパネルディスカッションで各施設における喉頭癌治療の現況について、特に喉頭温存の面から話し合いたいと考えております。

また特別講演として喉頭癌の治療について小宮山荘太郎九州大学教授に、頭頸部癌治療と機能温存について海老原敏国立がんセンター東病院院長に御講演をお願いしました。両先生とも日本の第一人者でおられますので内容のある御講演をしていただけるものと確信しております。

頭頸部癌治療に関する研究会はこれまで北海道、あるいは東北で単独で行われてきましたが両地域を合同、さらに広く同学の志を募り西高東低といわれた北日本の頭頸部癌治療の向上に少しでも役立てればと考えております。

第1回北日本頭頸部癌治療研究会
会長 高坂 知節

プログラム

Panel Discussion

司会 犬山 征夫教授（北海道大学）

テーマ 『各施設における喉頭癌治療の現況』（14：00～16：30）

－特に喉頭機能の温存とその治療について－

- 1) 札幌医科大学 朝倉 光司先生
「喉頭癌放射線治療後の再発例に対するレーザー手術」
- 2) 旭川医科大学 川堀 真一先生
「当科の喉頭癌T₁、T₂の治療－放射線治療、レーザー手術、部分切除術－」
- 3) 北海道大学 福田 諭先生
「カルボプラチンと放射線同時併用療法－喉頭癌での当科の経験－」
- 4) 国立札幌病院 田中 克彦先生
「喉頭機能温存手術の現況」
- 5) 弘前大学 太田 修司先生
「喉頭癌症例の統計的観察」
- 6) 秋田大学 石川 和夫先生
「当科における喉頭癌の治療と今後の課題」
- 7) 岩手医科大学 草野 英昭先生
「当科における喉頭癌の治療について」
- 8) 東北大学 佐竹 順一先生
「喉頭癌の治療成績－レーザー手術による保存率の向上と今後の課題－」
- 9) 国立仙台病院 橋本 省先生
「喉頭癌に対する放射線治療と化学療法」
- 10) 宮城県立がんセンター 西條 茂先生
「当科における喉頭癌治療」
- 11) 山形大学 中村 正先生
「当科における過去10年間の喉頭癌症例の検討」
- 12) 福島県立医科大学 鹿野 真一先生
「T₃声門癌における喉頭保存の検討」

特別講演

司会 高坂 知節教授 (東北大学)

演題Ⅰ 『九州大学における喉頭癌の治療』 - F A R 療法を中心として -
小宮山莊太郎教授 (九州大学) (16:40~17:25)

演題Ⅱ 『頭頸部がん治療と機能温存』
海老原 敏院長 (国立がんセンター東病院) (17:30~18:15)